月刊 THE EAST ASIAN REVIEW フランプレビュー

2010年11月号 No.167

東アジア総合研究所

視点	
レアアースの教訓	西 和久 1
現地ルポ	
中国少数民族の街を訪問	黒田 泰 3
論説	
「父親パワー」を凌駕しつつある金正恩	鄭 成長6
報告	
第5回北朝鮮問題緊急連続セミナー	
「金正恩3代世襲国家体制の危うさ」	編集部 9
案内	
第6回北朝鮮セミナー 北朝鮮新体制下の対外関係	編集部11
編集後記	
ソウルの関心もやはり経済	K12
最近の継承者問題	今12



レアアースの教訓

西 和久(東アジア総合研究所副所長、帝京平成大学教授)

レアアース(希土類)に国内の関心が集まっている。尖閣諸島沖で起きた中国漁船衝突事件の対抗措置の一つとして、中国がレアアースの日本向け輸出を事実上差し止めた(中国側は否定)ことからだ。大半を中国からの輸入に依存するレアアースが外交の武器に使われ、日本の産業界が震え上がった-というのが、よくみるマスコミの論調だが、はたして、そうか。

■最大の産出国は米国だった

レアアースとは、17種類の元素の総称である。 そのなかで比較的有名なのは、ネオジムだ。鉄に ネオジム(とホウ素)を混ぜると、強力な永久磁 石ができる。その磁石を使って、ハードディスク・ ドライブなど電子機器の超小型モーターがつくら れる。さらにレアアースのジスプロシウムを加え ると、磁石に耐熱性が生まれ、ハイブリッド車や 電気自動車のモーターとして不可欠なものになる。ほかに液晶パネルに必要なガラス研磨剤として使われるセリウムなども知られている。

このレアアース、世界の生産の90%以上(石油天然ガス・金属鉱物資源機構のリポートでは、2009年は95%)を中国が占めているから、問題になる。今後さらに市場が拡大するとされる環境対応車や電子機器に不可欠な資源の供給を、世界中が中国に依存せざるをえないのが現状だからだ。

だが、ここで勘違いが生まれることになる。レアアースは中国にしか存在しないという勘違いだ。実は必ずしも珍しいものではないのである。1990年代の中頃までは、北米、オーストラリア、欧州など世界中で掘られており、米国が最大のレアアース産出国だった。

ところが、採算性が低く、わずかなレアアースを採るのに大量の土石を掘り出さなければならず、分離過程で深刻な環境問題を引き起こしていた。そんなところに、中国・内モンゴルで巨大な鉱床が見つかり、安価なレアアースが大量に世界に供給されるようになる。その結果、中国以外の鉱山は、閉鎖や縮小に追い込まれたのである。

■最初で最後の外交カード

中国は、この10年ほどの間に、段階的にレアアースの輸出規制を行ってきている。とくに今年は、輸出枠の40%削減を実施し、世界中を慌てさせた。中国にとっては、資源確保の観点から、自国資源の安売りはしないという戦略は理解できる。もう一つの勘違いは、これから先も中国がレアアースを外交カードに使い、日本(と世界)の産業が首根っこを抑えられてしまうというものだ。

だが、世界中がこれまで手をこまぬいてきたわけではない。日本の総合商社などは、ベトナムやインドでレアアース鉱山の開発と権益確保に成功。カザフスタンでは、ウラン採掘で出る残渣からレアアースを回収するプロジェクトが進められている。先日は、菅直人首相がモンゴル首相と会談し、レアアース開発への協力について合意したとも報じられた。一方で、レアアースを必要としない技術開発も官民あげて進んでいる。

この数年の間に、需要の拡大と中国の輸出規制

とで、レアアースの国際価格は急上昇した。そうなると、中国以外での採掘も採算に乗ってくる。石油天然ガス・金属鉱物資源機構によると、米国、カナダ、オーストラリアなどで、現在 200 件をはるかに超すレアアース開発のプロジェクトが進行している。また米国では、かつて世界最大だったマウンテン・パス鉱山(2002 年に閉山)の再開準備が行われているという。

とりわけアメリカにとって、レアアースはミサイルなどの精密誘導システムや、GPS、暗視、レーダーなどの軍事機器に欠かせない資源でもある。中国がレアアースを露骨に外交カードとして使った結果、警戒感から世界中の開発プロジェクトがますます加速することになる。レアアースが外交の武器になったのは、今回が最初で最後かもしれないのだ。

■「都市鉱山」の開発を

とはいえ、安心するわけにはいかない。レアアースととともに、レアメタル(希少金属)のなかには、さらに産出地域の偏ったものが少なくない。日本にとっては、輸入先の多様化、権益の確保、代替技術の開発が必要なのはいうまでもないが、さらに重要なのは、リサイクルではないか。

「都市鉱山」と呼ばれるように、かつて日本に輸入されたレアメタル、レアアースは、電子機器や自動車などの製品に使われた状態で、ずいぶん蓄積している。電池に使われるリチウムが世界消費量の7.4年分、排ガス浄化の触媒などに使われる白金は同5.7年分、液晶パネルの電極に使われるインジウムは同3.8年分-という試算(物質・材料研究機構、2008年)もある。実は、日本は資源国なのだ。

しかし、このうちのごく一部しかリサイクルされていないのが現状だ。リチウムやレアアースなどは、いまのところ技術的、コスト的にリサイクルが難しいとされているが、多くは廃品の回収システムが機能していないことが原因だ。すべての鉱物資源のリサイクルが可能になるような技術開発、システム構築に官民あげて取り組むのが、長い目で見た今回の教訓を生かす道だと思う。

現地ルポ

中国少数民族の街を訪問

黒田 泰(ルポライター)

私は1月初旬から3月の中旬にかけ、約2ヶ月間中国の東 北およびチベット自治区、さらに南部地域に旅をしてきまし た。今回の旅行の目的は、日本の傀儡国家である旧満州国が あった東北地区と、中国の抱える民族問題の一端が表出する チベットに渡航し、これらの地域について理解を深めるとい うものです。実際に渡航した地域は上海、蘇州、南京、北京、 天津、長春、ハルビン、集安、西寧、ラサ、重慶、成都、昆明、 景洪です。では、それぞれを地域別に報告をします。

1 中国東北部(長春、ハルビン、集安)

中国の東北地区は第2次世界大戦中、日本による統治を受け、傀儡政権である「偽満州国」のあった地域です。長春の町の中には当時日本国軍の建設した施設が建ち並んでおり、それら施設は解放後も破壊されることもなく、今でも実際に病院や大学として使用されています(図1、2)。



図1 偽満州国軍事部跡 (現吉林大学第一病院)



図2 偽満州国国務院、(現吉林大学医学院)

東北地区の町に住む人の日本人に対する印象は複雑で、現地の人に私が日本人であることを明かすと、日本占領時代の苦難の話をされました。また、同じ東北部の中国と北朝鮮の国境の町である集安を訪れたときも、現地の人に「俺が子

供だったとき、集安の高句麗遺跡の中にはたくさんの財宝があったが、当時日本軍が集安を占領した時、高句麗時代の宝物をみんな奪い去った」という話を聞かされました。戦争を実際に経験した世代の人々の日本人に対する印象は、時がどれほど経っても変わることは無いのだと感じました。

以前、私が重慶に留学した時も同じような経験をしました。 重慶も、戦争中に日本軍の爆撃を受け多くの死者が出ました。 現在でも町のいたるところで当時の防空壕を見ることができ ます。

私は日本人として中国を理解するためには、中国があの戦 争をどのように捉えているのかを知る必要があると考えまし た。そこで長春で溥儀が実際に住んでいた故宮、および戦争 資料館を訪れました。資料によると、満州国建設後に日本は 中国東北地区の資源を奪い、現地の人々に日本語の教育、文 化を教え込み、また何十万にも及ぶ移民を日本から東北に送 り込んできたとあります。しかし、これらは今の中国政府が チベット自治区やウイグル自治区で行っていることとまった く変わらないのではないでしょうか。資料館展示の結びに、 「国家が侵略されれば人民は災難に遭うという歴史の教訓を、 永遠に忘れてはならず、愛国主義の旗を高く掲げ、中国の特 色のある社会主義を建設するために、また祖国の統一を実現 し、世界の平和を守るために努力しなければならない」とあ り、現在の中国は戦争の教訓を社会主義国家建設および愛国 主義教育に結び付けているように感じます。実際に中国では 小学校から大学までの各段階で、愛国精神や毛沢東思想など を根付かせる教育を実施しているようです。また中国では、 連日、戦争をテーマにしたドラマが繰り返し放映されていま す。このような教育で、果たして客観的な見識を持つ人材の 育成ができるのかは疑問です。ただ今回私は東北地区を訪れ、 日本の教育についても考えさせられました。実際に日本の教 育の中では世界大戦中に日本の行った行為について深く習う ことはありません。過去を軽視した考えは、今後他の国の人 と関わる際、誤解を生むことになりかねません。

グローバル化が進み、また現在のような新興国を中心とした経済発展が続く以上、経済上のパートナーとして日本はアジアの国々と協力していかなければなりません。そのような中、過去の歴史を理解することは、非常に大切なことではないでしょうか。戦争に関係する資料や遺跡の多くはアジアの国々に点在しています。私は日本の全ての学校がこういった戦争跡地の見学旅行を実施するべきだと思います。

2 中国西南部(西寧、チベット)

現在、チベットを渡航する外国人は必ず入境許可証を取得 しなければならず、さらにその入境許可証は基本的に旅行会 社を通してしか発行されません。つまり外国人はツアーを組 むことでしかチベットへ行くことはできず、さらにツアーの 参加者は毎日ガイドを雇わなければならないのです。この取 り決めの目的は2つあり、ひとつは渡航者の安全のため、も うひとつは一部の渡航者による暴動誘発の行動を防止するこ とです。あらためてチベットが政治的に不安定な地域である と実感しました。北京のユースホステルのオーナーに聞いた ところ、近年入境許可証無しでチベットに行く渡航者が跡を 絶たず、公安局からも「羊を1人でチベットに行かせないよ うに」という内容の文章が配られたそうです。また、チベッ ト独立や暴動を誘発するような計画を企てていそうな旅行客 が宿泊している場合、オーナーは公安に通報する義務がある そうです。実際、昨年のウルムチで起きた暴動の際、ウイグ ル族に対するチェックは特に厳重で、宿泊者がウイグル族で ある場合、店のオーナーは直ちに公安に通報しなければなら なかったそうです。

今回、私は2007年に西寧からラサの間に建設された青藏 鉄路に乗り、ラサに向かいました。西寧で出会ったチベット 族の男性は、この鉄道について、「この青藏鉄道が建設され たことにより多くの漢民族がチベット自治区に来るようにな り、ラサ市内では急速に開発が進むとともに、民族間の格差 がますます開いている」と話してくれました。さらに彼はこ の鉄道は彼らチベット人にとって「新時代のチベット侵略の 象徴だ」と言っていました。私がラサに到着してまず驚いた のは、駅や町のあちこちを武装した警官が市民を監視してい たことです。ラサの市内は急速に開発の進む漢民族居住区と、 以前からあるチベット人居住区に分かれていますが、チベッ ト人居住区の道には大体50m 間隔で警察の見張り場があり、 4~5人の武装警官が常に監視をしていました。(図3)



図3 チベット寺院の前を巡回する武装警官



図4 巡礼するチベットの人々

現在のチベットは、これだけの厳戒態勢でなければ治安を 維持できない、ということなのでしょう。ラサ滞在期間中に 漢民族の旅行者と一緒に行動することがありましたが、彼ら のチベット人に対するイメージは非常に悪く、ある人は「チ ベット人はバカで汚い」と言い、このような彼らを侮蔑した ような物言いには、私も少なからず腹が立ちました。もち ろん全ての漢人がチベット人に対して同じ印象を持っている わけではないのですが、彼らのこのような態度が、暴動を誘 発する原因にもなっているのではないかと思います。またラ サではほとんどのチベット人たちが中国語を話すことができ ず、私は滞在期間中、少しのチベット語を覚えて、現地の人 との交流を試みました。私が一般のチベット人のよく立ち寄 る大衆食堂で食事をとっていた時、付近で食事をしていたチ ベット人は私が日本人とわかると、「日本からよく来たね」 と言い、自分達の注文したバター茶(チベットの特産)をわ けてくれたり、別れ際にも「またチベットに来てね」と笑顔 で見送ってくれたりと、非常に親切な対応をしてくれました。 彼らの話によれば、ほとんどのチベット人は、漢民族および 中国政府を嫌っているということで、暴動があった一昨年や、 ダライ・ラマが亡命して20年になる節目の年であった去年 の一時期には、チベット人は身分証を持っていなかっただけ で連行されたそうです。「ラサ市内でチベット人の人権は無 い」と、あるチベット人は涙ながらに語ってくれました。

今回の全人代で、中国政府はチベットの安定統治に向け、今後5年間の財政支援を3千億元に倍増すると発表しました。教育予算も拡大し、民族間格差の是正を目指すそうですが、実際の目的は中国共産党に忠実な人材を育成することにあるといいます。しかし、例え共産党の考えを支持する知識層を育てたとしても、いずれ彼らは、中国政府の政策と地元民の要求のギャップに悩まされることになります。実際にウイグル自治区における暴動の指導者のほとんどが、そういった知識人だそうです。今回の全人代でも、中国政府は格差是正を通じて社会の安定を保ち、持続的な成長の条件を整えることが世界経済全体に対する貢献であるとし、内陸部のインフラ

を整えたり、開発を行っていますが、私は開発により物質的 に豊かになることが彼らチベットの人々にとって、果して本 当に幸せなことなのかどうかに疑問に感じました。

例えば以前、私は中国の麗江という町を訪れました。そこにはナシ族という、今でも象形文字を使って暮らしている少数民族が住んでいます。1997年に町全体が世界遺産に登録され、それに伴って多くの旅行客が麗江を訪れるようになりました。商業目的で町の開発が進み、そこに古くから住むナシ族も、普段から祭事の時にしか着ないはずの民族衣装を着て観光客の相手をするようになりました。麗江は確かに、物質的に豊かになりましたが、ナシ族の古来からの風習や習慣は変化してしまい、それが中国国内でも問題視されています。

開発により豊かになることを望む人々もいますが。物質的に豊かになることだけで本当の幸せになれるのかは疑問です。現在のチベットは、開発によって古くから彼らの住む居住区が変化しつつあります。また中国の愛国主義の教育により、彼らのアイデンティティも変化しつつあります。チベット騒乱の原因にはこういったチベット古来からあるチベット独自のアイデンティティの消滅という危機感が関係しているように思えてなりません。私がチベット人居住区の露店で買い物をしたとき、70歳代後半と思われる老人が対応してくれたのですが、この人は中国語がまったく話せませんでした。自分の生きてきた人生の中でチベットという国がなくなり、自分の国籍が中国になり、しかし中国語がしゃべれないというのは、一体どのような気持ちなのでしょうか。

現在の中国は政治的にも軍事的にも、世界の大国に発展しました。しかし、国内では依然として力で反対勢力をねじ伏せる強権的な政策を取っています。グローバル化に伴って様々な情報が交錯する中、中国はこの民族問題をいつまでも国内問題として処理することができるでしょうか。ただ、現在は中国が世界経済のけん引役となっている以上、他国も中国の人権問題に対し強く出ることができず、国際的な基本的人権の規準自体があいまいになりつつあるように感じます。GDP世界第2位になる国がこういった問題を抱えていることには違和感を感じました。

3 中国その他地域について

現在、上海は世界万博が開かれるということもあり、急速にインフラが整いつつあります。以前は駅員から直接購入していた列車の切符売り場も、今では自動の券売機が設置されています。また驚くべきことは、中国の交通事情で、北京や上海についてはここ2、3年で地下鉄が急ピッチで建設され、市内の移動は以前と比べると格段に楽になりました。重慶~成都間も以前は列車で4時間かかっていたのですが、昨年はその半分の2時間で行くことができ、現在はさらに早い高速

列車の建設もされているということです。ただ、北京の地下 鉄構内では農村からの出稼ぎと思われる農民工が、自販機を 前に切符の購入に戸惑っている場面をよく見かけました。そ の場にいた駅係員が切符を購入し、自販機での切符の購入が わからない人に対して渡すといった場面も見られました。交 通機関やいろいろな設備は、日進月歩の勢いで整いつつある のですが、国民の大部分がその変化に追いつけていません。

新疆やチベットのような未発達の地域もあれば、北京や上海のように急速に発展を遂げる地域もあり、地域ごとに、そこに住む人々の風習や文化も微妙に違い、今回あらためて中国という国の大きさを実感しました。

また、中国国内の格差が広がっているのも事実です。例えば集安の町の人に聞いたところ、町の人の平均収入は毎月1000元ほどで、工場もなく、雲南省のように観光旅行をするような見所もないため、多くの人は例えば中華料理屋と個人タクシーなどという、兼業をして生計を立てているそうです。一方、上海などの都市部に住む人の平均賃金は1万元ほどです。中国人の多くは、急速に発展する上海に住む人は傲慢であるというイメージを持っているそうです。ある上海人に聞いたところ、「自分たちは所得が多い分、税金も多く取られる。他の地域の人が上海人は傲慢だというが、税金の多くは他の地域の財源にもなっている。そんなことを言われる筋合いはない」と言っていました。しかし、本当に所得がきちんと分配されているのかは不明です。

今回の全人代で、政府にとっては格差是正、所得分配が重要なテーマになりました。鄧小平の打ち出した「先富論」により、沿岸部の地域は目覚しく発展しました。しかし一方の内陸部には、チベットや新疆のように物質的に貧しい地域も多くあります。たまに中国を旅していると、地域によっては別の国に来ているような錯覚に陥ります。それだけ、この国は広いのです。様々な民族がいて、文化も違い、同一民族内でも経済の格差が一段と広がっています。そういった現状は、社会不安や、地域間、民族間の軋轢を生みかねません。そうした中、一党独裁という政治体制はこの国を管理していく上で避けられないものであるという気もします。様々な課題を抱えている中国が、今後、どのように所得を分配し、政治的民主化を遂げるのかを見守っていきたいと思います。

(了)

論説

「父親パワー」を凌駕しつつある金正恩

鄭成長(世宗研究所首席研究委員)

かなり多数の北朝鮮問題専門家は、最近開かれ た北朝の鮮労働党第3回党代表者会では最高指導 機関の選出がなされることはあっても、金正日の 三男・金正恩の名前が公表されることはないだろ うと事前に予想していた。しかし北朝鮮はこのよ うな予想に反して、党代表者会の前日に金正恩に 対して大将という軍の称号を授与し、代表者会が 開幕した9月28日未明には金正恩の名前に言及 しながら、大将称号の授与措置が取られたことを 報道した。そして党代表者会では、軍を直接に指 揮することのできる軍事最高指導機関である党中 央軍事委員会の副委員長に金正恩を任命し、翌日 の9月29日に公開した。北朝鮮はさらに9月30日、 労働新聞に金正恩の写真を公開し、朝鮮中央テレ ビを通じて金正恩の映像まで流した。3日間とい う短い期間内に、金正恩を名実ともに金正日の後 継者とし、後継者にふさわしい公式的職責を付与 したという事実を公開し、金日成・金正日と似た ようなカリスマを身につけた若い指導であるとい うイメージを、国内外に信じ込ませることに成功 した。

金正恩は今回の党代表者会で、過去に金正日が 第6回党大会の際に選出された党中央委員会政治 局常務委員と、書記という職位を受けることがで きなかった。しかし1980年の第6回党大会で金 正日が担うことになった「党中央軍事委員会委員」 職よりもはるかに高い「党中央軍事委員会副委員 長」職に任命されたことで、事実上、金正日がか つて第6回党大会で得た立場に釣り合う程度の公 式的立場を保有することになった。

「党中央委員会と党中央軍事委員会は有名無実化しており、北朝鮮では国防委員会が『最高権力機関だ』と主張してきた韓国国内の多くの専門家とメディアは、あわてて位置付けを変え始めた。国防委員会が浮上するにつれて「退歩」の道をずっとたどってきた党中央軍事委員会が「過去の地位

を乗り越えて後継体制構築の『指令塔』の機能まで果たすことになりそうだ」という分析を示すようになってきた。しかし筆者が既に「時事ジャーナル」2010年2月2日号(通巻1058号)の「国防委員会は北朝鮮の最高権力機関ではない」という寄稿文を通じて明らかにしたように、軍事分野では党中央軍事委員会が国防委員会よりも大きな影響力を持つ権力機関だ。

金正恩が党中央軍事委の副委員長の職位に任命されたことによって有名無実化していた党中央軍事委が急に最高軍事指導機関となった、というわけではない。北朝鮮の5大権力機関(党中央委員会、党中央軍事委員会、国防委員会、最高人民会議常任委員会、内閣)の中で、国防委より実質的に力がある党中央軍事委のナンバー2としてのポストに、金正恩が選ばれたということだ。そうでなくても軍事分野で国防委より権威のある党中央軍事委員会で、副委員長ポストを後継者・金正恩が受け持ったわけで、党中央軍事委は過去よりもその位置が一層高くなる見通しだ。

党中央軍事委員会の副委員長には李英鎬総参謀 長も任命されてはいるが、金正恩の名前の方が李 英鎬より先に挙げられた。そして李英鎬が 2009 年以来、金正恩の「領軍体系」樹立のために努力 した結果を認められて副委員長職に任命されたと いう点も勘案して考えると、北朝鮮で「首領」と 同一である「絶対的地位」を保持している「首領 の後継者」の金正恩が、李英鎬より上位にいると みなすことができる。

今回の党代表者会で金正恩が党中央委政治局常務委員と書記局書記のポストに選出されなかったことは、党の二大最高指導機関である党中央委と党中央軍事委を同時に掌握することよりは、金正日の健康が不安定な状況下で「集中と選択」の戦略に従って、まず党中央軍事委を掌握し、同委を通じて軍部を確実に統制した後に、党中央委の掌

握に順次進めていくことが、権力の安定的な継承にとっては有利だと判断したためだと思える。金正恩を党中央軍事委のナンバー2にまず任命したことには、北朝鮮として金正恩が「金正日の先軍政治の継承者」というイメージを住民たちの心に刻み込ませる狙いもあっただろう。

党代表者会で、金正恩は党の核心的な要職に選出されていく要件といえる党中央委の委員に選出されており、党中央軍事委では序列で金正恩より下位に位置している李英鎬が政治局常務委員に選出されていることから、金正恩も事実上、政治局常務委員に該当する立場にあるとみなすことができる。これは、金正日が党代表者会の参加者たちと一緒に記念写真を撮ったという事実が9月29日に北朝鮮により報道された際に、金正恩党中央軍事委副委員長の名前が「朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会の委員である金永南、崔永林、李英鎬」と列記したすぐ次に言及されたことによっても確認できる。

金正恩は、北朝鮮のパワーエリートたちの人事も掌握するなど、事実上の党中央委員会組織担当書記の役割を遂行しつつあり、今回、別途に組織担当書記が選出されなかったため、金正恩が組織担当書記に選出されていくことも時間の問題だと見られる。金正恩が党代表者会の参加者たちと撮った写真を見ると、彼と金正日だけが人民服を着ているが、これは金正恩に対して「軍部指導者」のイメージを超えた「人民の指導者」というイメージを、大衆の間に植え付けるためだと見ることができる。

金正恩の後継体制を構築していくことは、この間の「後継修行段階」「後継者内定段階」「後継者 決定の対内的な公式化段階」を経て、9月28日の 党代表者会で金正恩を党中央軍事委副委員長とい う軍事最高指導機関のナンバー2のポストに任命 することよって、とうとう「対外的な公式化段階」 に入るようになった。

「開かれた北韓通信」など一部メディアでは、 北朝鮮内部の消息筋などを引用しながら、対外関 係を除外した内政面で、金正恩の影響力が金正日 の影響力よりもっと大きくなっているとの評価を 下している(棒グラフを参照)。

金正日が金日成から権力を継承することができた際には、金日成の積極的な支援を受けただけでなく、金正日の持って生まれた権力欲とエリート層に対する強い掌握力が起因になったように思えることが、黄長燁・元労働党中央委員会書記が北朝鮮から逃れた後に行った証言によって明らかになっている。

▽韓国は事態急変を期待せず「金正恩政権」に 現実的戦略を立てよ

金正恩が短期間に金正日から権力の相当部分を 引き受けることができたことは、金正日の健康状 態が不安定で国政全般を掌握するのが難しくなっ たことと、金正日側からの積極的な支援があった こと、そして後継者論といわれる後継者の指導体 制の構築に向けたマニュアルの存在、北朝鮮の封 建的な政治文化があったというだけでなく、金正 恩の特出した政治力と権力掌握力も起動力となっ ている点も、明白に認識する必要がある。「開か れた北韓通信」が北朝鮮内の消息筋の話として伝 えたところでは、金正恩は「リーダーシップとカ リスマ性の面においては、金正日のように、並大 抵でない非常に強い性格を持っていると見られて おり」、このような事実は北朝鮮が9月30日に朝 鮮中央テレビを通じて公開した金正恩の党代表者 会での映像の分析結果でも一定程度、把握するこ とができる。

金正恩の後継体制構築が対外的公式化にまで進展してきた現状況で、韓国政府は1990年代半ばのように北朝鮮の崩壊に対する「希望的思考法」に基づいた現実性が希薄な「急変事態」に備える計画を樹立するのではなく、金正恩の政治的な力量と性向、非核化問題と改革・開放に対する取り組み姿勢、韓国や中国や米国に対する態度、金正恩側近エリートたちの性向などに対して体系的に分析し、公式に出帆した「金正日・金正恩政権」と、将来の「金正恩政権」を相手とした、今よりも現実的な戦略と政策を樹立しなければならない。

北朝鮮での権力譲渡が加速化されようとしている現時点で、対北朝鮮の戦略家がおらず、北朝鮮問題の門外漢である国際政治専門家が韓国政府統一省を掌握しているような現在の不適切な対北政策の推進体制も、至急改善する必要がある。統一種がホームページなどを通じて、かなり前に死亡しているエリートたちを「北韓権力機構図」の中にそのまま放置して掲示していたことなど、基礎的な国民に対する情報提供サービスさえもなおざりにしている職務遺棄の姿勢も是正されていかねばならない。

参考

金正恩後継体制のプロセス

(1) 後継授業段階 (1983 ~ 2006.12)

- ・金正恩は母親、高英姫と金正日によって「王子」 つまり後継者として育てられる。金正日は、3人 の息子の中で金正恩を寵愛。
- ・高英姫が生存中、北朝鮮エリートが参加する各種 宴会に参加。
- ・ 高英姫は金正哲または金正恩を後継者にするため 側近を動員して金正日を説得。
- ・スイス留学(1996年~2001.1)。
- ・ 高英姫が生存中、金正日の軍部隊訪問同行。
- ・金日成軍事総合大学歩兵指揮官3年制と研究年2 年制。

(2) 後継者内定段階(2006.12~2009.1)

- ・金正日の軍部隊訪問随行。
- ・金正恩の北朝鮮社会に対する政策的指導を支える 政治・経済・軍事などの40~50台の実力者で構成された実務チーム結成。

(3) 後継者決定の対内的公式化段階 (2009.1 ~ 2010.9)

- ①後継者金正恩の政治的指導体系構築 (2009 年上半期)
 - ・後継者決定後、中央党組織指導部と軍総参謀部を 通じて党と軍隊の掌握に着手。
 - ・軍が「金正日の軍隊」から「金正日と金正恩の軍 隊 に変化。
 - ・北朝鮮のパワーエリート人事に関与。

- ・各組織の上層部から下層部に段階的に後継者決定 通報。
- ・金正恩による権力継承正当化文書および称賛歌謡配布。
- ②金正恩の政策的指導体系構築(2009年下半期)
- ③政策決定と人事への積極的介入(2010年~)

(4) 後継者決定の対外的公式化段階(2010.9~)

- ・金正恩に「人民軍大将」の称号を授与しながら報 道機関で金正恩の名前を公式に言及。
- ・党代表者会で党中央委員会委員と党中央軍事委員 会副委員長という党の中核要職に任命。
- ・金正恩が党代表者会参加者たちと撮影した写真ト 代表者会参席映像公開。
- ・金正恩の対外公開活動本格化および個人崇拝文献 出版。
- ・金正恩は北朝鮮の対内政策を全般的に管掌する が、革新的事案については金正日の承認を受けて 決定し、金正日は対外関係を主に担当する役割分 担体系が定着。
- ・共和国元帥称号授与および軍最高司令官職移譲。

(5)「ポスト金正日」最終権力継承段階(?~)

- ・党総書記継承。
- ・金正日を「共和国の永遠の国防委員長」として持 ち上げ、国防委員会廃止。
- ・漸進的に対外関係の前面に登場。 [韓国・時事ジャーナル 2010 年 10 月 12 日号より]

北朝鮮問題緊急連続セミナー第2期「動き出す北朝鮮」 第5回「金正恩3代世襲国家体制の危うさ」

2010年10月20日 アルカディア市ヶ谷

講師: 五味洋治(東京新聞 前ソウル、北京特派員)

コメンテーター: 高永喆(こ・よんちょる、当研究所副所長、

拓殖大学客員研究員)

コメンテーター:姜英之(かん・よんじ、当研究所理事長)

モデレーター:小野田明広(当研究所副理事長)

五味講師は、韓国語、中国語、英語に堪能な外報部記者で、ソウル、北京両特派員経験を基に「中国は北朝鮮をとめられるか」を6月上梓(晩謦社)。

冒頭、生活用品重視を訴える平壌の百貨店広告看板、外国訪問客がよく視察する大同江総合果樹園、アリラン祭典でのマイコン数値制御(CNC)と朝中友好を訴える中国語による人文字などのカラー写真で最近の北朝鮮の様子を紹介。労働党代表者会の1カ月前には金正恩登場に向けた歌や「青年大将」の言及はあったが、実際の大将称号授与などは意外感を持って平壌市民に受け止められていたと最近の訪朝者の話を披露した。日本メディアの人事予想も外れたものが多かったという。(以下は敬称を略させていただきます)

金正日のコックだった藤本が親中、親日としたり、戦車の運転や花火打ち上げが得意など、金正恩関係の情報ははっきりしない。中途半端な公開ぶりだった印象が強く、まだ3代目・金正恩を売り込む広報戦略の初期段階なのかもしれない。党代表者会に先立つ8月~9月に金正日の体が弱っている姿が集中的に北朝鮮内で流されたのも、世代交代の必要性を国民に訴えたのだろう。李英鎬総参謀長の躍進が人事では立つ。労働党の規約改正で3代の血統を強調、「金日成の党」とされた。金正恩が生まれた場所といわれる咸鏡道が神格化され始めるだろうとも言われている。母親の故高英姫は北朝鮮に渡った在日朝鮮人のためもあって

か伝説化はほとんど行われておらず、金正日の妹 の金敬姫が母親役を果たしているようだ。来年春 にも中国を訪問するのではないか。産経新聞ソウ ルの黒田は「金正恩は核で周辺諸国を脅かすだろ う」と書いているが、その可能性も排除できない。

国防委員会は老齢者が多く、党の方に力が移り、 国防委は名目化し、金正日が「永遠の国防委員長」 になるかもしれない。

経済展望では、北朝鮮の社会科学院の人が「靴を1年間で1.6倍生産できるようになった」「熙川(ヒチョン)の発電所が完成すれば平壌の停電はなくなる」「国民1人当たり総生産は636ドルだが、かつての2530ドルを目指す」などと説明している。かなり大きく言っている感じで、636ドルはバングラデシュ並みの「世界最貧国」。改革・開放の必要性を北朝鮮も論文などで訴えているが、「既にやっている。これ以上やる必要がない」との姿勢で、国営商店での物品の販売送信などを言ってはいるが、成果は疑問だ。デノミについて、平壌の人は怒っているが、すっかり過去の話として忘れられかけている。経済担当者は「狙いは良かったが時期が悪かった」と説明している。

対外関係では、中国と「これまで互いに許さなかったことを許すようになり」蜜月関係にある。昨年9月の温家宝中国首相の訪朝では、北朝鮮は50年前の周恩来後として初めて、朝鮮戦争での中国義勇軍の墓を訪れることを許した。北朝鮮は中国が東北を解放する際に朝鮮が貢献したと訴えており、中国としては悩ましい問題だったが、今年8月の金正日訪中では東北への直接訪問を中国が許した。中国側は、北朝鮮の動向にかなりの危機感を持っている背景があるのではないか。

中国共産党の周永康政治局常務委員の訪朝団が 朝鮮労働党創建65周年の行事に参加した際、黒 龍江省と吉林省の幹部も同行したと伝えられる。 韓国は北朝鮮危機時に取り残されるのを恐れており、李明博大統領も天安号沈没事件以来の強硬姿勢を和らげつつある。当面は北朝鮮としては、金剛山観光や航空管制の協力復活など南北関係を改善すべく動こう。

米国は北朝鮮の事態推移を見守る姿勢のため、 米朝関係が動くのは早くても来年だろう。

北朝鮮は対日では、鳩山由紀夫には対米姿勢などから新対応を期待したが、菅直人には批判的だ。

当研究所の高永喆副所長がコメント。金正日が5年か10年以内に死亡する場合は、権力闘争が起こりかねず、3代世襲がうまくいかない可能性がある。その場合は金正恩政権も短命に終わろう。金正日がそれ以上生きれば、3男の金正恩体制が固まろう、と指摘した。韓国の例を引いて、カリスマ的指導者が急逝した後に権力闘争と混乱が起きるのが朝鮮半島の歴史だと指摘した。

次いで姜英之当研究所理事長によるコメント。 五味報告は、まだ3男だと公表していない、母親 の高英姫を伝説化するキャンペーンがない、とい う重要な2点に触れた。中国のマカオに住み中国 と関係があるとみられる長男の金正男が世襲反対 と発言したと伝えられる。李済剛労働党副部長ら 金正日の最側近で金正恩を持ち上げようとしてい た2幹部が奇妙な事故死などで姿を消すなど、権 力闘争はまだ残っており、今後1、2年が危ない と思う。張成沢はじっと見守っている状況だ。

五味が自著でも触れたが、中国は「金正日の健康状態から見て、誰でもよいから北朝鮮を安定させてほしい。とりあえずは(3代世襲を)黙認している」と指摘した。中国メディアも3代目として黙認して報道しているという。10月14日の黒龍江新聞が、丹東で地価が上昇、朝鮮語を学ぶ人が増えていると伝えており、中朝の経済関係はさらに緊密化した。内政不干渉姿勢を北朝鮮にとるのは、中国にも人権など痛いところがあるためだ。金正男はテレビ朝日によく出るが、中国のスポークスマン役との見方は当たらないではないか。

会場から党代表者会が遅れた理由について質問 があり「公式説明はないが、水害で車が動かなかっ たと言う人もいる。金正日の病状悪化説も、確たる根拠はないがあり得る」(五味)、「軍が足を引っ張ったとの見方も」(高永喆)、「権力内部の人事配置で調整が難しかったためだろう。軍の呉克烈が党に横滑りしなかったのが注目される」(姜英之)。呉克烈については、党65周年の記念式ヒナ段には姿があったと五味が指摘した。

金正日の生存期間、金正男と金正恩の関係の質問も出た。「藤本の本でも金正男は金王朝のロイヤルファミリーからは外されている印象だ」と五味。高永喆は米情報当局の見方が「金正日は3年程度生きるだろう」だったと指摘。また金正男を暗殺するような動きは、北朝鮮にとり不利との指摘も。

北朝鮮が改革・開放をしない理由への質問へは「中国の『先冨論』への反発、カネが入ってくると体制が危うくなるという本能的な危機感を持っているのではないか」と五味が回答。

南北統一への展望では、五味が「中国の上海の 学者の本で、米国と中国の双方とも南北朝鮮の統一を一番レベルが低い『一般的利益』としている。 米国にも中国にも重要でないという位置付けだ。 中国は安定を損いかねないと見るし、米国も統一 朝鮮が反米になるだろうと懸念している」と回答。 姜英之が「残念ながら分断固定化による安定という現実は重い。北朝鮮は日本や米国から当面はカネが取れないと判断して、中国の東北3省と関係を強めて2012年の「強盛大国の大門を開く」成果をもたらしたいと思い、きつく言えば中国の"属国化"しつつある。李明博大統領は日本により添う姿勢を示し韓国内に反発がある」と述べた。

セミナー後、参加者の有志が恒例の懇談を会場 近くで行い、さらに意見を交換し、親睦を深めた。 案 内

北朝鮮問題緊急連続セミナー

[第2期] **(動き出す北朝鮮)** 第6回 北朝鮮新体制下の対外関係

北朝鮮では 10 月 10 日、朝鮮労働党創建 65 周年を迎え、首都平壌の金日成広場では大規模な軍事パレードが行われ、ひな壇に金正日総書記と並んで後継者に確定した 3 男の正恩党中央軍事委員会副委員長が閲兵、先軍政治路線を引き継ぐ新しい次世代指導者の面貌を内外にアピールした。果たして、今後北朝鮮は、金正日・金正恩父子の新しい権力体制のもと、どのような新しい対外政策を打ち出すのか、とくに 6 カ国協議再開への姿勢、日米との関係改善に乗り出すのか、多角的に分析したいと思っています。

各位におかれましては、本セミナーを通じて、研究調査、言論報道、政策樹立、さらには将来のビジネスチャンスを探る上で、貴重な情報収集・交換の場にしていただければ幸いです。どうぞ、ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

-第6回 北朝鮮緊急連続セミナー-

講師:武貞秀士(防衛研究所統括研究官)

コメンテーター:姜 英之(東アジア総合研究所理事長)

モデレーター:小野田明広(元共同通信論説委員、東アジア総合研究所副理事長)

日時:11月19日(金)午後6時受付 6時半から9時まで(終了後、自由懇親会)

会場:アルカディア市ヶ谷 東京都千代田区九段北4-2-25 電話 03-3261-9921

会費:3,000円(資料代を含む)

主催:東アジア総合研究所(理事長 姜英之)

〒 105-0004 東京都港区新橋 5-30-6 藤和産業ビル 2 階 電話 03-3433-6581 FAX 03-3578-8288

申し込み方法;下記事項を記入してFAXしてください。

	FAX 03 - 3578 - 8288	
氏名;		
所属;		
住所;		(自宅・勤務先)
電話 FAX 番号;		_
メール;		

編集後記

●ソウルの関心もやはり経済

ソウルに出張で行った。2日間の短い間に、例によってタクシー 運転手との会話を楽しんだ。ちょうど、野党の民主党の代表選挙 があって、有力視されていた孫鶴圭常任顧問が選ばれた。2年後 の大統領選挙を控え、事実上の大統領候補選挙といわれ、熱気を 帯びていた。

孫さんは大統領になれるかと聞いたら、なれないという。どう してかと聞くと、与党からは必ず朴僅恵元ハンナラ党代表が出て、 圧倒的に国民が支持している彼女が勝つというのだ。しかし、北 朝鮮と対峙し、いつ戦争が起きるかもしれない朝鮮半島で、韓国 の統帥権者が女性というのは国民の間で抵抗があるのではないか と言うと、それは昔のことで、今では女性でも構わないという雰 囲気があるという。あー、それぐらい韓国では女性の社会的地位 が強くなっているのだなと感心した。だが、運転手は男であれ、 女であれ、与党であれ、野党であれ、関係ないというのだ。政治 はもう誰がやっても同じだという。誰でもいいから経済を何とか してくれと言うのだ。韓国は日本と違って世界金融危機からいち 早く立ち直り、景気も良いと思っていたが、庶民の生活は一向に 良くならず、不満の声が大きいことが分かった。日本でも、尖閣 事件、普天間問題と重大な外交問題に揺れているが、国民はそれ よりも将来の生活不安に関心が強い。勢いのある韓国も、縮む日 本も、共に経済問題、特に生活不安は共通しており、どちらも政 治家の力量が問われていることを実感した。

●最近の継承者問題

9月28日に北朝鮮の金正日総書記の三男ジョウン氏が30年ぶ りに開かれた朝鮮労働党代表者会で党中央委員と中央軍事委員副 委員長に選出された。軍や党での実績は謎の状態で、張成沢氏の 後見下での船出となる。

一方、中国では10月18日に中国共産党の中央委員会総会で胡 錦濤総書記の後継者と目される習近平氏が軍事委員会副主席に選 出された。事実上、今後10年間の中国の最高指導者の人事を決 めたものと言える。

東アジアに位置する両国家の後継者問題は、日本は言うに及ば ず、世界の政治・経済・外交・軍事等各般に与える影響も大きい。 後継者問題に関連して注目されるのは、スムーズに引き継ぐた めの諸施策である。

北朝鮮の場合は、その施策が、本来あるべき国家としての各種 施策ではなく、後継者体制づくりに腐心している姿がある。この 様な状況で日本が係わる拉致問題、核開発を巡る6者協議は、果 たして解決の目処がつくだろうか。一方、中国では、長期間の高 い経済成長による国家としての自信と、反対に歪みがあり、様々 な問題も起こしてきた。

両国の後継者は、これらについてどう対応するのか。

東アジア諸国の友好を念頭に研究をするに当たり、研究テーマ が尽きないことは喜ばしい限りではあるが、今まで以上の注意と 関心が必要のようだ。

(K)

(今)

*会員の申し込み

◎会員(年間)

《個人会員》1口5千円 《法人・団体会員》1口5万円

◎特典

会員は定期刊行物「東アジアレビュー」の配布を受け、その他の刊行物について特別割引、当研究所が開催するシンポジウム・ セミナー参加、また委託調査事業において優遇を受けることができます。

◎会員の申し込みは、所定の申込用紙を FAX にてお送りください。

東アジアレビュー

2010年11月号

第20巻・第11号・通巻167号 2010年11月1日発行

発行人 姜 英之 編集人 平川 均

編集委員

根津清(主幹)・小野田明廣(編集長)・長瀬誠 田村秀男 · 西和久 · 朝倉堅五 · 高永喆 · 井上雄介 李鋼哲‧李燦雨‧金丸知好‧和仁廉夫‧劉鋒

編集スタッフ 橋本みゆき・堤一直・柳智玲 南貞花・金恩実

発行所 東アジア総合研究所 発 売 株式会社AIB

T105-0004

東京都港区新橋5-30-6 藤和産業2F

TEL: 03-3433-6581 FAX: 03-3578-8288

http://eari.jimdo.com/

印刷・製本 株式会社 東邦